

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立紀伊コスモス支援学校

校長名：上村 弘幸

目指す学校像・育てたい児童生徒像	学校評価の公表方法	育友会役員会、学校運営協議会等を通じて自己評価及び学校関係者評価の結果について公表する。また、本校ホームページ上に記載する。	現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
				B	概ね達成している。	(60%以上)
				C	あまり十分でない。	(40%以上)
				D	不十分である。	(40%未満)
「共生社会の中でよりよく豊かに生きる人間の育成」を学校教育目標とし、教員集団が高い指導力を有するとともに、課題解決に向け組織力を発揮できる学校とする。 目指すこども像を「自分らしく豊かに生きるこども」とし、個々の発達の段階に応じ、チャレンジすること、自他を大切にすること、思いを伝えること、役割を果たすことができることを目指す。						

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月7日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	全教員が、児童生徒の的確な実態把握に基づき、つけたい力から授業をデザインする。チーム・ティーチングを見直し、指導・評価の妥当性を向上させる。	C	特別支援教育に係る基礎・基本研修の実施と教員間の学び合い 職員会議・特設研修による人権感覚、意識のブラッシュアップ 知的障害特別支援学校における各教科指導のスキルアップ	教員全体研修（コスモス研修）（10回） 人権及びハラスメント等に係る研修（5回） 国語科に関する研修・実践報告会の実施	B C B	年間を通じた研修実施により、特別支援学校教員として必要な専門性を担保することができてきた。 体罰事案以降も、全体研修等を通じ教員の意識啓発を行った。教員間でのチェック機能向上が課題。 全体や学部研修、実践報告会を通じ「国語科」の教科指導を深める事ができた。	次年度も本校の教員として備えておくべき基本的知識や「授業実践」について、年間を通じた職員研修を実施する。「理論と実践の融合」をテーマとし、ワークグループ編成を工夫しながら、人材育成にも資するものとする。
2	児童生徒の健康の増進及び学校安全と危機管理の徹底を図る。	B	ヒヤリハット報告や危機管理の啓発により危機意識を高く保つ 医療的ケアに関する校内体制を再確認し新しいケアに対応する 児童生徒の防災意識を向上させる	緊急時対応研修（2回） ヒヤリハット随時共有 医ケア委員会（随時） 医ケア研修（2回） 避難訓練（シェイクアウト含む）実施（3回）	A A A	怪我や発作、医療的ケアに係る緊急対応等について研修を踏まえ、教職員の対応意識を高く保てた。 学部を超え校内体制を構築し、学校看護師と共に対応できた。緊急時対応等についても準備できた。 全体での避難訓練とともに、各学部・教育部門での訓練を計画的に実施できた。	感染症対策や医療的ケアの基本及び緊急時対応を全職員で共有し、各学部で随時の判断を行いながら学習活動を実施する。事故や怪我、ヒヤリハットの事例共有について、管理職から強く発信を行う。防災教育の充実を図る。
3	キャリア教育・職業教育の視点で、一人一人の児童生徒に将来において必要な能力の育成を図る。	C	キャリア発達の視点を活用し、各指導計画を立案する 高等部で校内技能検定や積極的な現場実習を実施する 各学部で児童生徒のキャリア発達を支える実践を充実させる	キャリア教育評価シートを用いた実態把握 一般就労希望者の就職率向上と離職率の低下 若手教員を中心とした事業所見学の実施	B B B	シートの活用について年度当初に啓発を行い、児童生徒の実態把握にいかすことができた。 校内技能検定10月実施。高等部1年生時実習実施。一般就労希望者就職率～100%（4/4） 若手職員対象職場見学研修を夏季休業中に実施し39名の教員が参加した。	学部ごとのキャリア発達を踏まえた年間指導計画・単元計画及び個別の指導計画の作成を目指す。見直しを行った「各類型で目指すこども像」に基づき、教育課程の編成を行っていく。福祉施策の動向を踏まえ、関係機関と連携し高等部生徒の進路実現を図る。
4	校内の教育資源を最大限活用し、特別支援学校のセンター的機能を発揮する。インクルーシブな教育を目指し、地域における特別支援教育の推進を図る。	B	学校ホームページを活用し、センター的機能を充実させる 通級指導教室や特別支援学級を担当する教員研修を実施する 各学部における「交流及び共同学習」の充実を図る	HP掲載コンテンツの充実（10項目以上） 公開授業研・校内研修会への参加人数50名 「交流及び共同学習」実施率の向上	B A B	自立活動や教材教具、本校が開催する研修情報等について情報発信を行った。 夏期休業中各研修会、11月に公開授業・研修会を開催し計90名の参加を得た。 小学部13校37名、中学部5校14名、高等部2校（那賀、市和歌）と実施。	学校HPでセンター的機能に係る情報発信を充実させる。 校区各校の特別支援教育に係る専門性向上に資する巡回相談や研修会等を実施する。また、各学部において交流及び共同学習を充実する。

学校関係者評価（2月7日実施）

（人権にかかわる研修）
・教職員が「児童生徒へのかかわり方のチェックシート」等を実施することで、障害特性に係る理論理解だけでなく、普段のかかわり方や何気ない言葉のやり取りにも気を配ることができる。
・今後も自校で作成したチェックリストを、ブラッシュアップしながら継続することが大切である。

（ヒヤリハットの情報共有）
・ヒヤリハットや軽微な事故等は関係する複数の人から報告があがることで、より早く正確に情報を共有することができる。

（校内技能検定について）
・校内技能検定に取り組む生徒の姿を見て、目標に向かい挑戦することの大切さと生徒の自信や励みになると感じた。
・生徒自らが技能検定に取り組む姿勢や意欲を感じることができた点が素晴らしい。

（学校ホームページについて）
・ホームページが見やすく、紀伊コスモス支援学校の情報発信（授業、教材、研修等）の場になっている。今後も充実していったほしい。

（交流及び共同学習について）
・地域の高校生と紀伊コスモス支援学校の生徒が共に活動する場があることで、生徒同士が自然に交流することができていた。今後もこのような取組を続けてほしい。
・紀伊コスモス支援学校の生徒が中学校の部活動（野球）の練習に参加することで仲間意識が芽生え、部員から練習だけでなく公式戦に一緒に出たいという意見がでていた。地域の学校の生徒にとっても良い経験となっている。
・小学校と紀伊コスモス支援学校の教職員が交流することでお互いの専門性を高める貴重な機会になっている。